

福井市の公民館のあゆみ（その5）

8. 平成初期の福井市の公民館活動（まちづくりのための住民意識の育成）

平成 元年 国政による「自ら考え自ら行う地域づくり事業（通称：ふるさと一億円創生事業）」

平成 2年 「福井市ふるさとおこし42事業」

市内42地区に一律300万円を交付し、地区単位でのまちづくりの推進に取り組んだ。この事業は、地域で協働して、その地域をよりよくしようとする住民意識を育成するきっかけづくりに役立った。地域に根ざした活動にひたむきに取り組んできた公民館は、優良公民館として文部大臣から連続して表彰をうけた。

平成 3年 中藤島公民館が優良公民館として文部大臣表彰を受ける

地域の先輩たちが後輩を育てるとい世代間の交流を通しながら、地域について老若男女が一緒になって考え、そして、学習活動や地域づくりに地域が一体感をもって取り組んでいる。

平成 4年 旭公民館が優良公民館として文部大臣表彰を受ける

地域を流れる荒川の水質検査を小学生が継続的に実施し、その事業を通して地域全体で環境への取り組みや、地域の河川を調べることにより地域の歴史について学び、まちづくり活動に発展させてきている。

平成 5年 東藤島公民館が優良公民館として文部大臣表彰を受ける

町内にある花壇や個人の庭先に花を植えるなど、地域の環境意識の向上につながる取組として、花いっぱい運動をはじめとした美化活動を地域ぐるみで展開している。

9. 福井市の公民館と地域づくり活動（うらがまちづくり推進事業）

平成6年に就任した酒井哲夫市長は、「すべての市民がそれぞれに役割を担い、一人ひとりが参加できる市政を展開すること」を意味する「市民参加・運動会型」市政運営を提唱し、これをまちづくりの具体的施策として事業化した。

平成 7年 「うらがまちづくり推進事業」がスタート

市内43地区（公民館単位）で、それぞれの地域の歴史や伝統・文化、産業等を活かし、地区の魅力や資源を再発見し、継承し、発展させることをめざしたものである。各地域では、性別・年齢を越えて多くの者が、地域の特色を活かした個性豊かな魅力ある地域づくりに取り組むことになった。市のこの取組は全国でも評価され、自治大臣表彰を受けた。

平成 9年 「潤いと活力のあるまちづくり」優良地方公共団体自治大臣表彰（住民参加のまちづくり部門）受賞

平成10年 「うらがまちづくり支援事業」を展開

平成12年 「21世紀わがまち夢プラン」策定

43地区のそれぞれの地域が目的に向かって取組を進めてきたプロセスを経て、まちづくりの新展開をめざす「21世紀わがまち夢プラン」を平成12年度に策定し、平成13～15年度には推進事業に取り組んだ。この事業への公民館の関わりは大きく、一連の「うらがまちづくり事業」を支援し、その取組をきっかけにして成果を得たところが多い。

平成13年 東安居公民館が優良公民館として文部大臣表彰を受ける

東安居公民館では、少年学級として小学生のころから公民館で活動してきた中高校生のジュニアボランティアの活動が活発で、公民館活動や地域活動の活性化に一役買っている。さらに、住民総ぐるみで取り組んできた河川敷堤防の美化活動の一環で植えている菜の花が毎年市民の目を和ませている。

平成15年 東郷公民館が優良公民館として文部科学大臣表彰を受ける

東郷公民館は、地区内の自治会や団体を一つのネットワークにつなぎあわせ、地区の特産おつくね（おにぎり）をテーマにした‘まつり’を核として地域の人たちの心をつなにし、地域活動を展開している。

平成16年 啓蒙公民館が優良公民館として文部科学大臣表彰を受ける

啓蒙公民館は、社会の情勢をいち早くキャッチした公民館活動を子どもからお年寄りまで幅広い層を対象に展開している。例として子どもや青年には食育等の現代的課題を、また公民館評価の課題については住民代表の公民館運営審議会で調査するなど先駆的取組をしている。